

在宅医療

のしくみづくりを始めます！

在宅医療とは、病気や障がいをもっても年をとっても、住み慣れた自宅などで自分らしく生活し続けられるよう、医師や看護師が自宅などに出向き、医療などを行うことです。高齢社会となった日本では、入院患者の約半数が高齢者となり、病気が治っても生活の援助が必要な方が増えています。そのため「病院で治す医療」から「地域で支える医療」へと医療の質が変化しています。

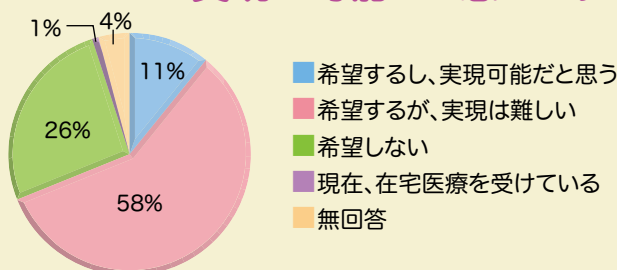
在宅療養実現に向けて、市では、在宅医療・介護連携拠点事業に取り組んでいます！

- 在宅医療や介護の関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できるよう、結城市在宅医療連携推進協議会・結城市在宅医療連携推進ワーキンググループを設置し、地域の関係機関の連携体制の構築を図っています。
- 市民および在宅医療・介護従事者に意識調査を実施し、現状を分析し課題解決に取り組んでいます。
- 普及啓発のため講演会・シンポジウムの開催およびチラシなどの配布を行っています。
- 在宅医療・介護の質が向上するよう、在宅医療・介護従事者対象に研修会や意見交換会を実施しています。

在宅療養に関するニーズ

(結城市在宅医療に関する市民意識調査H27.12)

Q.在宅医療を希望しますか
またその実現は可能だと思いますか？

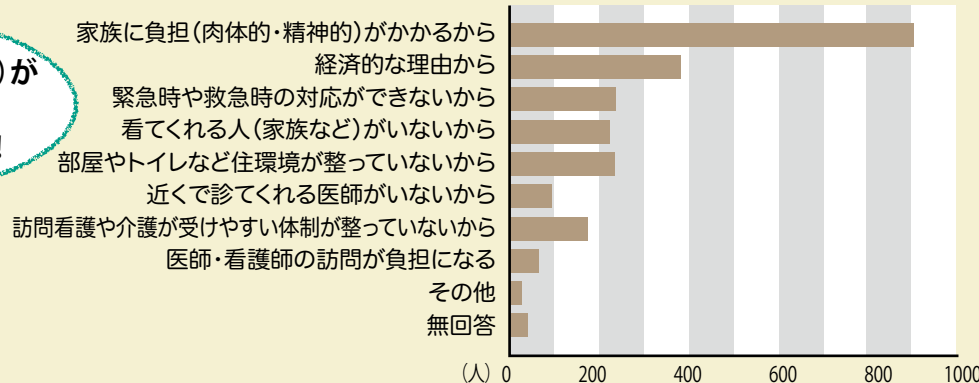


約7割の市民は「在宅医療」を希望している

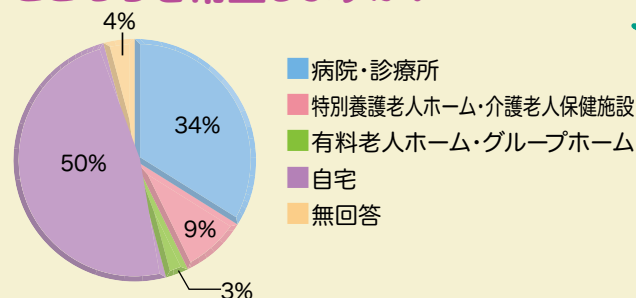
在宅医療を希望すると回答した方のうち「でも実現は難しい」と約8割の方が思っている!!

Q.在宅医療を「希望するが実現は難しい」または「希望しない」と回答した理由は何ですか？

「家族に負担(肉体的・精神的)がかかる」という理由から実現が難しいと思っている!

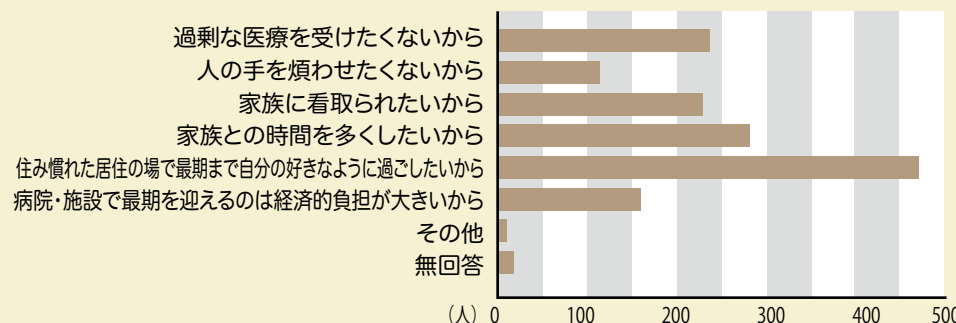


Q.最期を迎える場として、医療機関と居住の場とどちらを希望しますか？



約半数の市民は「自宅などで最期を迎えたい」と思っている!

Q.最期を迎える場として、自宅を希望した理由は何ですか？



「住み慣れた居住の場で最期まで自分の好きなように過ごしたいから」という理由が最も多く、次に「家族との時間を多くしたいから」、「過剰な医療を受けたくないから」という理由が多かった。

～在宅療養に向けての流れ～

